

貧困の空間的分布傾向と決定要因：フィリピン、ビコル地方のアルバイ州とカマリネス・スル州を事例として

Spatial Patterns and Determinants of Poverty: The Case of Albay and Camarines Sur Provinces in Bicol, Region, Philippines

Vista Brandon M.[1]; 村山 祐司 [2]

Brandon Vista[1]; Yuji Murayama[2]

[1] 筑波大・空間情報科学; [2] 筑波大・生命環境

[1] Division of SIS, Univ. of Tsukuba; [2] Univ. Tsukuba

<http://giswin.geo.tsukuba.ac.jp/sis/en/index.html>

貧困は空間性を有しており、地理、とくに自然環境は、貧困地域におけるコミュニティや居住者に対する貧困条件の重要な役割を果たしている。しかしながら、特にフィリピンにおける貧困の空間性は、既存研究でほとんど扱われてこなかった。本研究の目的は、貧困の空間パターンとその決定要因との関係を明らかにすることである。研究対象地域には、フィリピンにおいて最も貧しい地域の一つであるビコル地方の互いに隣接しあうアルバイ州とカマリネス・スル州を選定した。GISにより、土地の傾斜、高度、土壌、降雨量、河川への近接性といった農業気候条件や道路整備状況、主要な市場、店舗へのアクセスを算出した。財政分権化や土地改革のような政府計画および人口増加という諸要因が貧困に与える影響を究明するべく回帰分析を行った。その結果、貧困の空間的パターンには不均一な特徴があることが明らかになった。貧困の空間的な不均一性は主に道路整備状況の格差によるものであり、それは道路整備における地理的バイアスの存在や土地改良の実施の遅延が原因である。さらに、開発や経済が集中している主要都市への近接性や標高、傾斜、降水量といった農業気候の差異は、貧困を規定しているとともに、地理的に不利な条件である地域の存在を示している。したがって、地理条件および社会政策が貧困状況に対して多大な影響を与えていることが明らかとなった。